

# 地域のモビリティ確保の知恵袋2016 ～対流促進による地域交通の活性化～

平成29年4月

国土交通省 総合政策局 総務課  
政策企画官（総合交通体系担当）

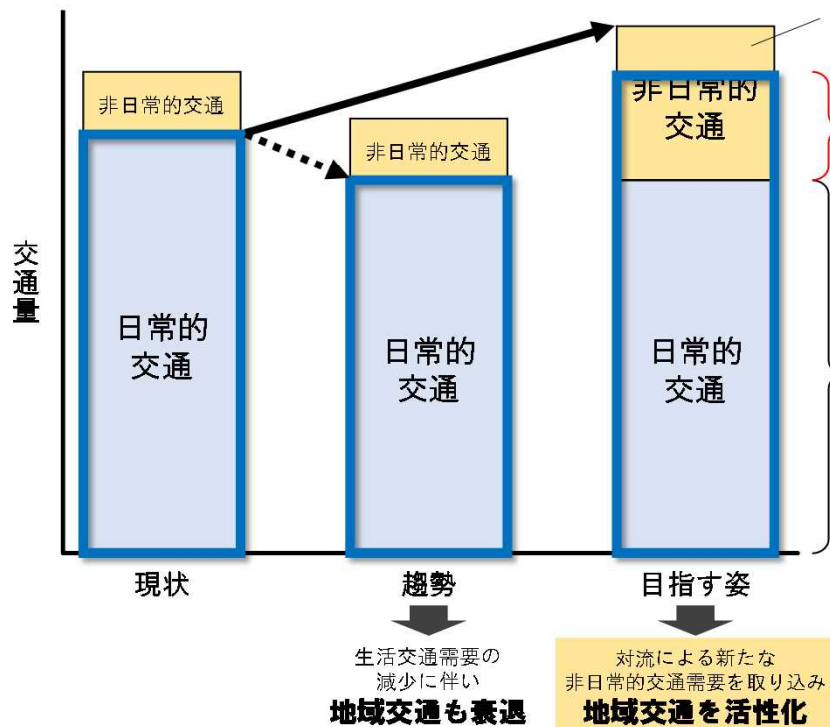


# 0. 本知恵袋のねらい

- ・ 本格的な人口減少を迎える中で、地域の公共交通を維持するためには、如何に地域住民以外の需要を取り込むことができるかが、着眼点の一つ
- ・ 本知恵袋は、対流促進により発生する来訪者等の交通需要を取り込むことで、地域の公共交通の活性化を図る方策を提示し、地域公共交通の活性化につながることを期待

## <本知恵袋のねらい>

**地域交通※が対象とする範囲**  
 ※公共交通・シェアリングサービス等不特定多数の人々が利用する交通機関



## <全体構成>

**1 新たな国土像・地域構造**

国土のグランドデザイン2050  
国土形成計画(全国計画)

国土像：対流促進型国土

地域構造：  
コンパクト+ネットワーク

**2 地域交通の現状と課題**

**2.1 地域交通の現状**  
・利用者減少とサービス水準低下の悪循環

**2.2 地域交通の課題**

- 1) 地域における存在意義・役割の低下
- 2) マイカーからの転換の受け皿となる公共交通のサービス水準の低下
- 3) 関係者の場当たり的な行動・対応

**3 今後の地域交通のあり方**

**3.1 基本的な考え方**  
対流促進による地域交通の活性化  
対流による新たな交通需要を取り込み、利用者増加とサービス水準向上の好循環を創出

**3.2 地域交通施策の方向性**

- 1) 地域活性化策等のまちづくりとの一体性の確保
- 2) 交通サービスの組み合わせによる効率的な地域交通体系の構築
- 3) 交通サービスの利用を容易にするための取り組みの充実
- 4) 関係者の意識共有・連携のための場づくり

**4 地域内外との対流を越えす仕掛け**

**4.1 地域内外との対流に導く動向**  
・体験・交流、田園回帰など地域内外の対流に対する志向の変化が判明

**4.2 地域内外との対流の原動力となるまちづくりの仕掛け**  
・独自の地域資源について、他地域のニーズを踏まえ活用する方策検討

**4.3 地域内外との対流により生じる交通需要**  
・複数の仕掛けにより、地域内の回遊交通を創出することが必要

**5 対流を取り込む地域交通施策のあり方**

**5.1 地域交通活性化に向けた戦略の考え方**  
・戦略上の位置づけを明確にしつつ、必要な施策を組み合わせる

**5.2 対流を取り込む地域交通施策**  
・来訪者の交通特性を踏まえた交通施策

来訪者等を対象とし、公共交通サービスの創出・改良	交通サービスの新規導入	定額制交通の導入
	交通サービスの改良	シェアリングサービスの導入
来訪者等を対象とし、公共交通サービスの活用促進	情報提供の充実	時刻表・路線図の作成
	乗車券の改良	非居住地域への導入
	料金体系の導入	フリーパス等の導入

**5.3 対流を取り込む地域交通施策の立案**

**5.3.1 地域交通の成長戦略の検討**  
・地域交通の活性化に向けた戦略の立案手法と仮想のケーススタディ(参考例)を提示

**5.3.2 施策の具体化**  
・戦略を踏まえた地域交通施策について、施策の具体化に向けた手法を提示

- ① 前提条件の整理  
・施策の具体化にあたっての前提条件(交通のネットワーク状況・関係者の役割分担等)を整理
- ② 検討の流れ・検討すべき事項の提示  
・前提条件を基に、事例等も参考に、施策の具体化に向けた検討の流れ・検討すべき事項を提示

# 1. 新たな国土像・地域像

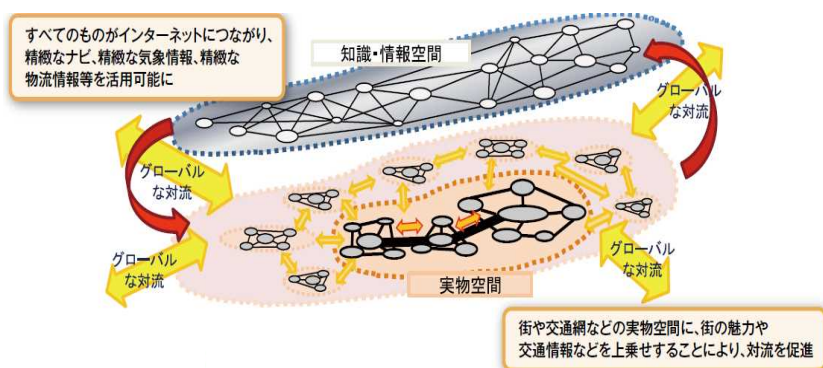
・国土のグランドデザイン2050、国土形成計画（全国計画）で示された新たな国土像・地域構造を踏まえると、対流により生じる交通需要の取り込みが、地域交通の活性化に向けて重要

## ■国土像：対流促進型国土とは

- ・対流とは、地域間相互の人・モノ・情報の行き来になぞらえたもの
- ・対流促進型国土とは、人・モノが対流する実物空間、情報が対流する知識・情報空間を高度に発展・融合させ、全国各地で様々なレベルの対流が湧き起こり、イノベーションを生み出す国土

## ○地域交通との関わり

- ・対流を促進するために、地域間・地域内の人の移動を支えることが求められるとともに、**対流による地域への来訪者等の増加は、地域交通の新たな需要として期待**



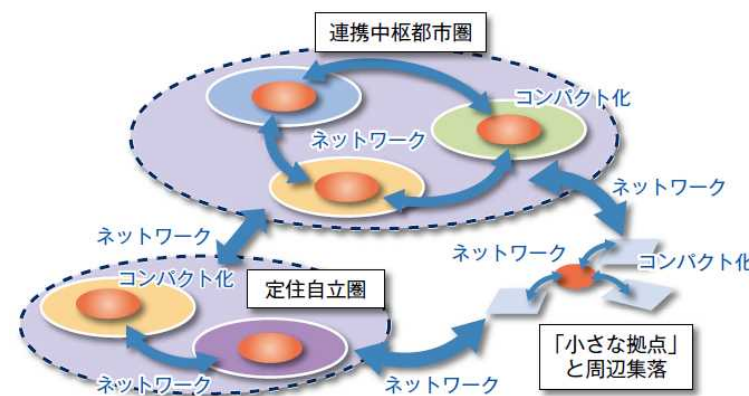
資料：国土のグランドデザイン2050パンフレット

## ■地域構造：コンパクト＋ネットワークとは

- ・地域内の一定の区域に医療・福祉施設、商業施設等がまとまって立地させる拠点的な区域を設定して、施設の集約化を図るとともに、居住地と拠点的な区域とを公共交通を中心とした交通ネットワークで結び、地域住民が施設にアクセスできる地域構造

## ○地域交通との関わり

- ・**まちづくりと地域交通体系を一体的に再編し、公共交通が骨格となる地域構造の実現により、地域交通体系の持続性の確保が期待**



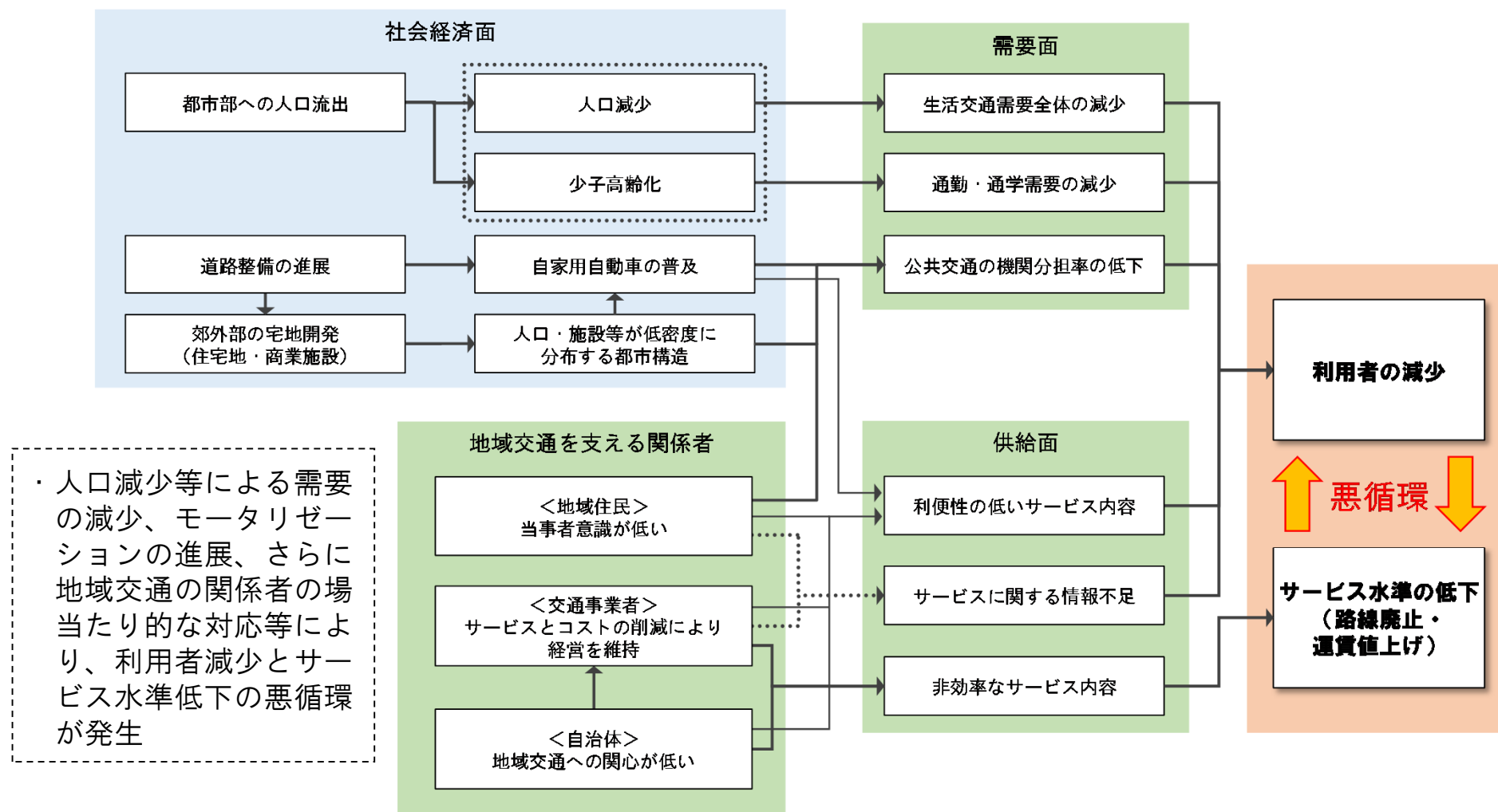
※集落地域においては居住機能の集約までを本来的な目的とはしない

資料：国土形成計画（全国計画）パンフレット

## 2. 地域交通の現状と課題 (1/2)

- ・ 既存統計資料等から地域交通の現状を整理し、地域公共交通の衰退の要因を分析

＜利用者減少とサービス水準低下の悪循環のイメージ＞



## 2. 地域交通の現状と課題 (2/2)

- ・ 地域公共交通の役割や公共交通のサービス水準、関係者の意識・行動の視点から、地域交通の課題を整理

### 1) 地域における公共交通の存在意義・役割の低下

- ・ モータリゼーションの進展により、地域の交通体系における公共交通の地位は相対的に低下
- ・ シビルミニマムの確保のみならず、地域活性化の下支えや地域構造の骨格の形成といった地域交通が担うべき役割の確立が必要

### 2) マイカーからの転換の受け皿となる公共交通のサービス水準の低下

- ・ 利用者減少に伴いサービス水準も著しく低下する一方で、路線の重複など過大なサービスが提供されるなど効率性が低下
- ・ ネットワーク再編や効率化を進め、マイカーからの転換の受け皿となるサービス水準の確保が必要

### 3) 関係者の場当たりの行動・対応

- ・ 地域住民、交通事業者、自治体の場当たりの行動が利用者の減少、サービス水準の低下といった悪循環に陥る一因に
- ・ サービスの改善と利用増加の好循環を生み出す、関係者の主体的・積極的な行動の喚起が必要

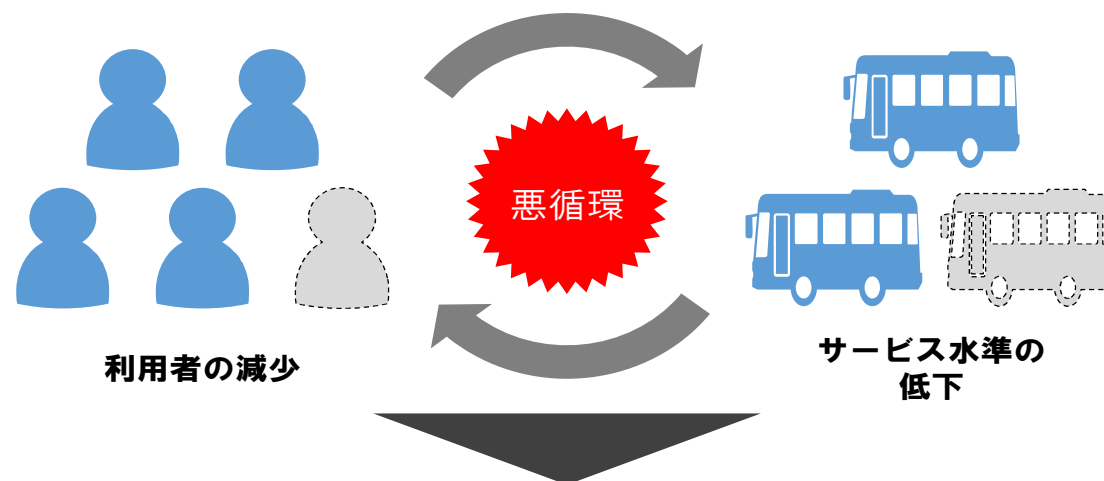


### 3. 今後の地域交通のあり方(①基本的な考え方)

- ・ 本格的な人口減少、少子・高齢化社会において、地域の足を確保するため、地域住民に加え、来訪者等を新たな需要として取り込むことで、地域交通の活性化を期待

#### <背景>

- ・ 従来の地域交通施策は、主に地域住民の生活交通を対象として、取り組まれてきたが、本格的な人口減少社会を迎える中で、**地域住民のみでは十分な需要が確保されないことが想定。**



#### <狙い>

- ・ 財政制約が一段と厳しくなる中で、地域住民と**対流により新たに生じる来訪者の交通需要を取り込み、需要を確保**することで、地域交通を活性化することが重要。



図 対流による地域交通の活性化 (イメージ)

#### 1) 地域活性化策等まちづくりとの一体性の確保

- ・ 地域交通施策とまちづくりを一体的に取り組み、地域における存在意義・役割を確立

#### 2) 交通サービスの組み合わせによる効率的な地域交通体系の構築

- ・ 効率的なネットワーク形成によるサービス水準の維持・向上

#### 3) 交通サービスの利用を容易にするための取り組みの充実

- ・ 地域交通の利用を容易にし、利用者を確保

#### 4) 関係者の意識共有・連携のための場づくり

- ・ 関係者の意識共有のための場づくり、関係者の主体的・積極的な行動を喚起

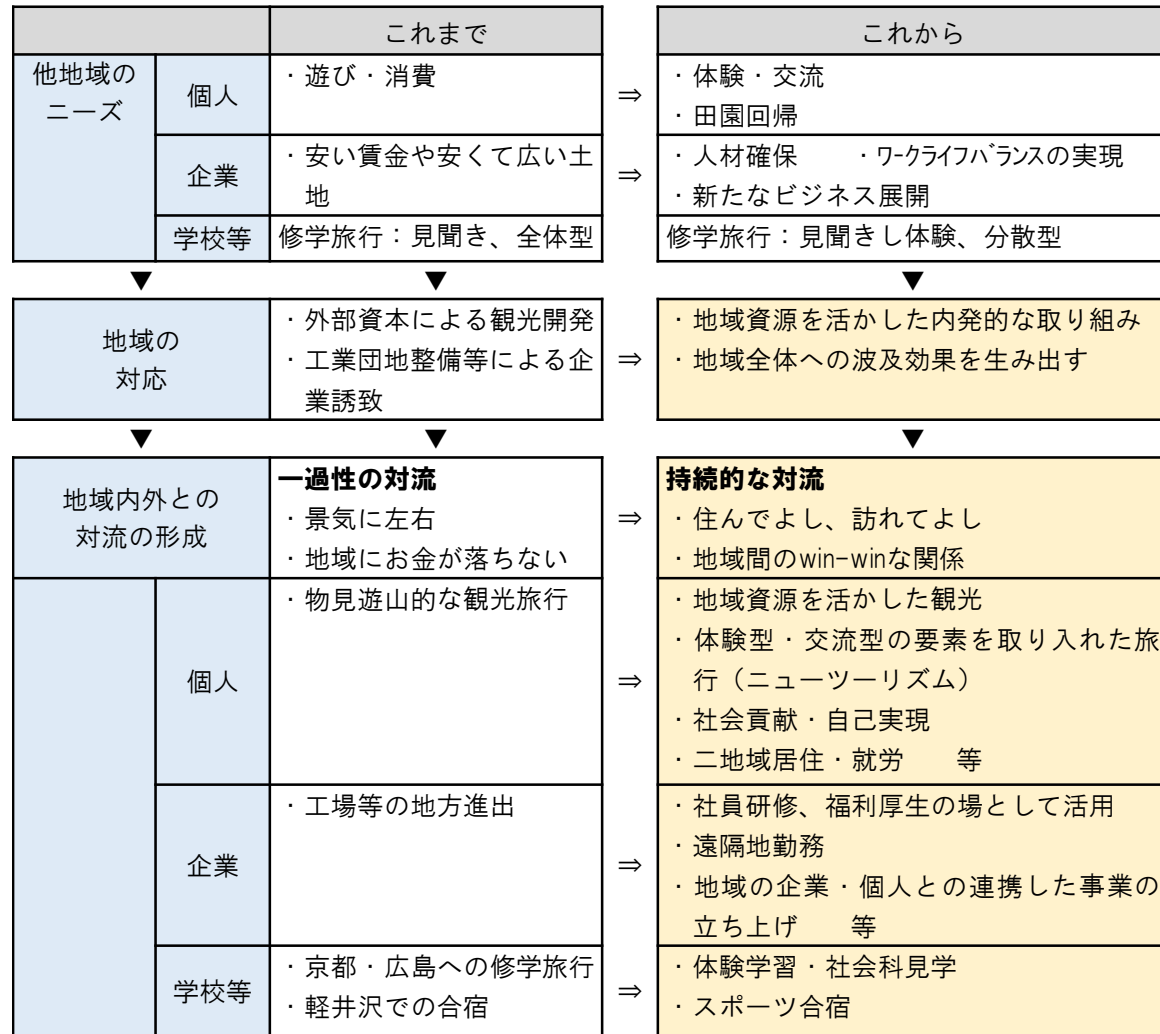
# 4. 地域内外との対流を起こす仕掛け(①地域内外との対流に係る動向) 国土交通省

【機密性2】

・ 体験・交流、田園回帰など地域内外との対流に係る志向の変化を踏まえ、地域主体による内発的な取り組みにより、地域内外との持続的な対流促進に取り組むことが必要

・ 地域に人を呼び込むために、リゾート開発による観光客誘致や工業団地整備による企業誘致など様々な取り組みが行われてきたが、人口は減少し、旅行の個人化などによる旅行者ニーズの多様化や、産業の空洞化などから、**従来型の取り組みでは、継続的な対流を生み出すことは困難**となりつつある。

・ 各地域においては、地域住民・企業などが主体となり、**地域に密着した独自の個性を磨き、地域外から人を呼び込むことが求められる。**



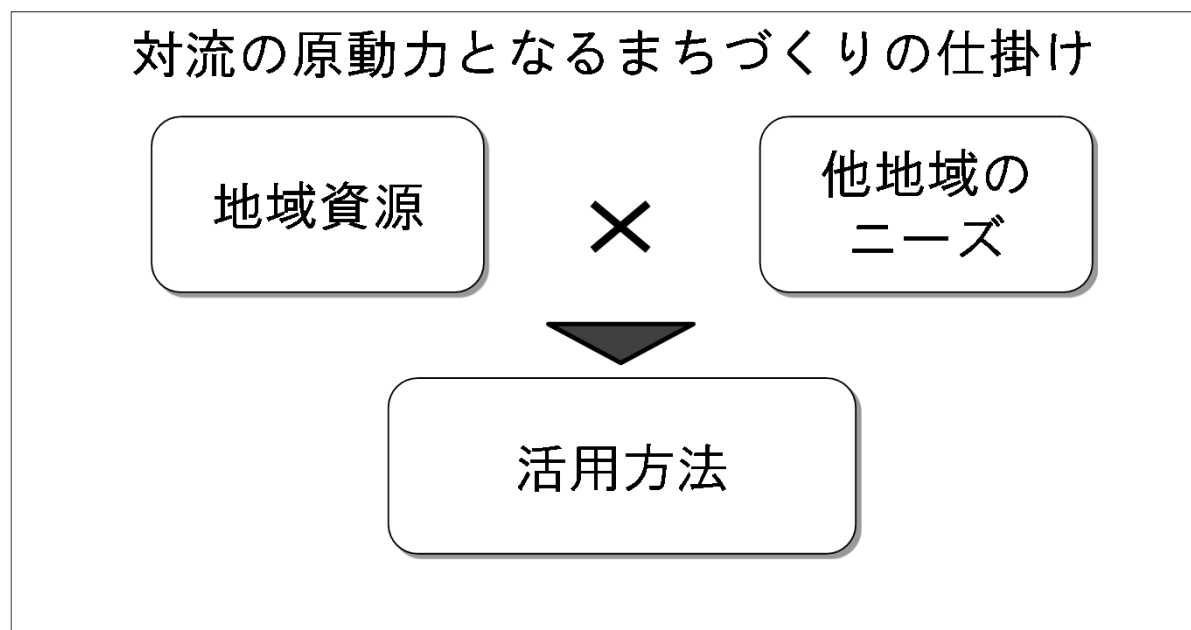
地域内外との対流の変化



## 4. 地域内外との対流を起こす仕掛け(②まちづくりの仕掛け方)

- ・ 独自の地域資源の発見、他地域のニーズを踏まえた活用方法の検討が不可欠
- ・ 対流の持続性を確保するための工夫が必要

- ・ 地域は、何が対流を引き起こす個性（地域資源）であるか、他地域のニーズを踏まえて、その個性をどう磨くか（活用方法）を地域で検討することが必要。
- ・ 一過性で終わることなく、持続的な取り組みとするためには、対流による効果の地域への波及や、対流の量や種類の拡大等の工夫も必要。



まちづくりの仕掛けのイメージ

・まちづくりの仕掛けを作る手順として、1) 組織づくり、2) 地域資源の洗い出し、3) ニーズの把握、4) 地域資源の活用方策の検討、5) マーケット戦略の検討、6) 実施・運営の6段階に分類

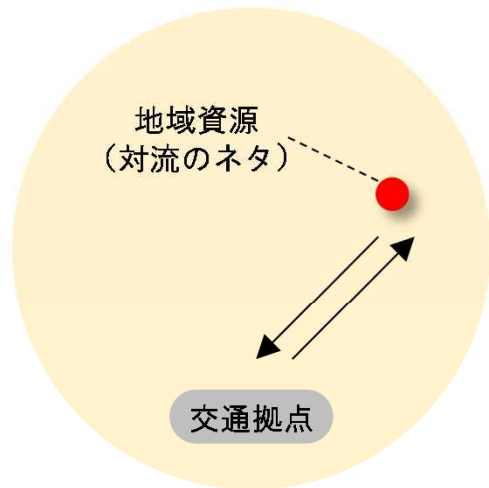


まちづくりの仕掛けを作る手順例

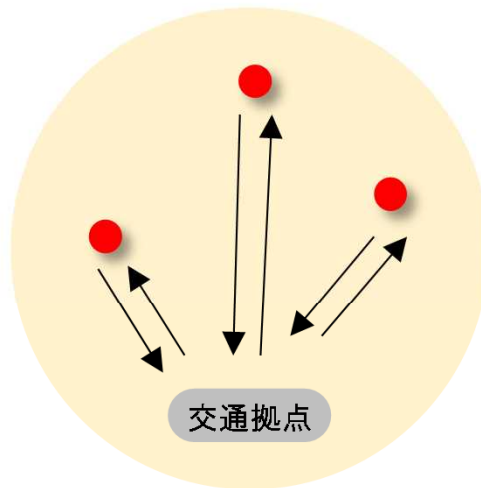
# 4. 地域内外との対流を起こす仕掛け(④地域内外との対流により生じる交通需要)

・ 複数の対流ネタを基に、地域内の回遊を創出することが重要

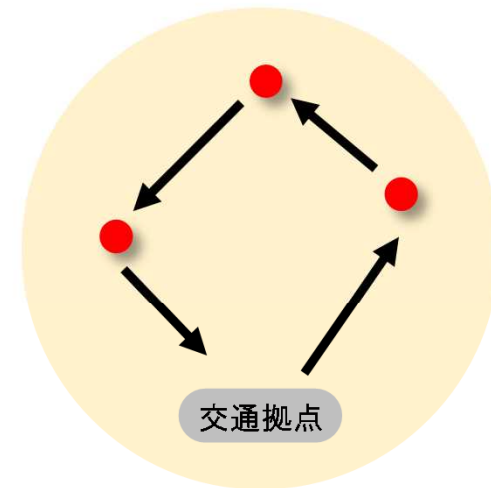
- ・ 地域内外との対流により生じる交通需要には、以下のようなパターンが考えられる。
- ・ 地域の活性化、地域交通の需要確保の観点からは、地域内をより多く回遊してもらうことが望ましく、対流ネタを連携させるなど、取り組みを拡大させ、地域内での回遊を創出することが重要



a. 往復型 1



b. 往復型 2



c. 回遊型

地域内外との対流により生じる交通需要のパターン

- ・「製品と市場」の2軸を「既存と新規」に分類し、企業の成長戦略をパターン化する「アンゾフのマトリクス」を地域交通施策に応用することで、各種施策の戦略上の位置づけを明確化

＜地域交通活性化に向けた戦略パターン＞

地域交通施策は交通ネットワークの  
 ・サービス水準を高めるハード的施策と  
 ・利用を容易化するソフト的施策  
 に大別される

地域交通施策の手法の違いによる  
 “サービス”の既存・新規の区分

従来の地域交通施策は  
 主に地域住民の日常的交通を  
 対象としてきた

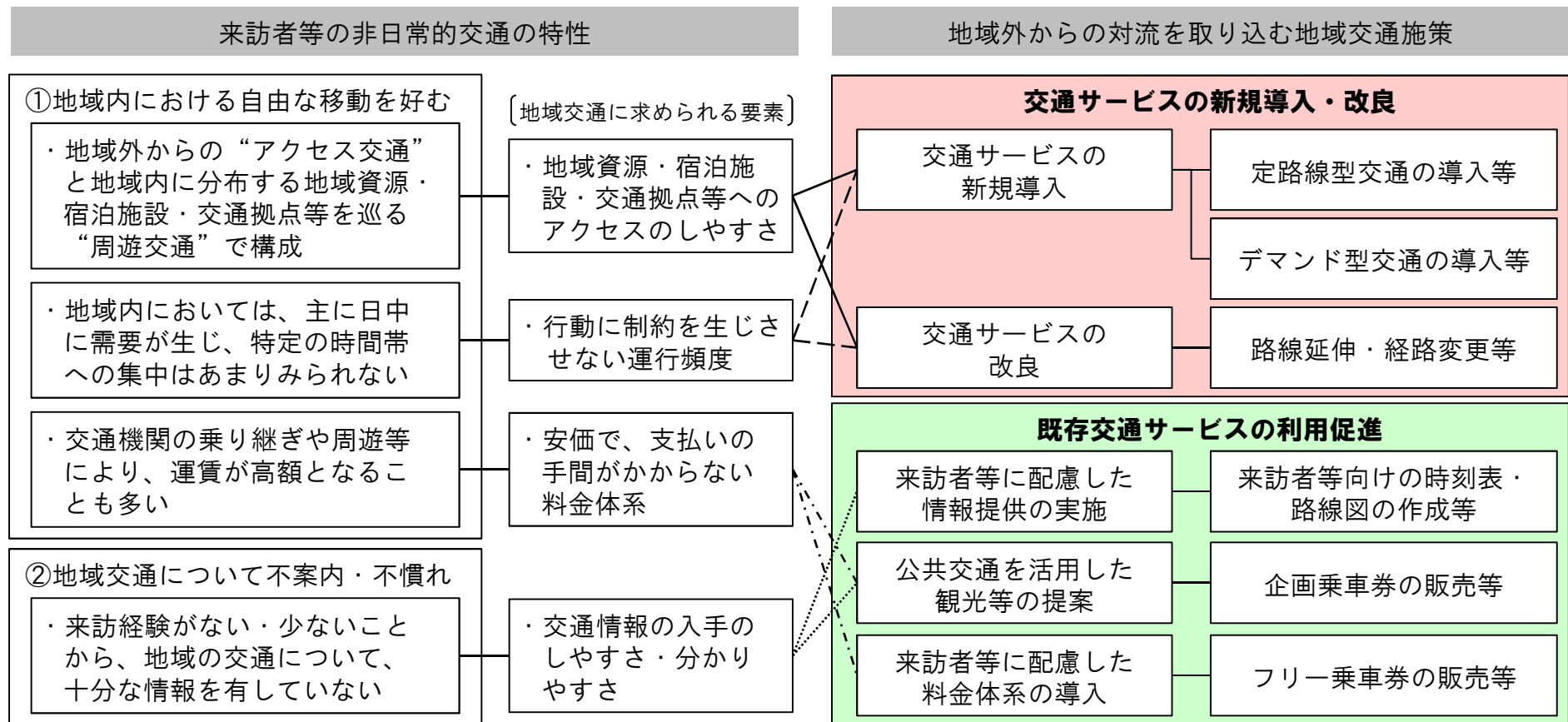
地域交通施策の対象による  
 “市場”の既存・新規の区分

※一般的な例として提示。本文中  
 に地域の特性等を踏まえた4象  
 限の設定が必要である旨を明記。

		サービス 手法	
		既存 (交通サービスの利用促進) 利用の容易化	新規 (交通サービスの新規導入・改良) サービス水準の向上
市場 対象	既存 地域住民の 日常的 交通等	<b>地域住民等を対象とした 交通サービスの利用促進</b> ・日常生活の利用に適した路線図・ 時刻表等の作成 ・運賃のワンコイン化 ・地域住民の意識変容 等	<b>地域住民等を対象とした 交通サービスの新規導入・改良</b> ・幹線・支線の機能分担 ・幹線部へのBRT等の導入 ・支線部のデマンド化 等
	新規 来訪者等の 非日常的 交通等	<b>来訪者等を対象とした 交通サービスの利用促進</b> ・観光情報等と交通情報の一体的提供 ・周遊フリーパスの導入 ・企画乗車券の販売 等	<b>来訪者等を対象とした 交通サービスの新規導入・改良</b> ・地域資源等へのアクセスも考慮した、 ①新たな交通サービスの提供 ②既存サービスの延伸・経路変更 等

・ 既存の調査結果等から来訪者等の交通特性を整理するとともに、具体事例も参考に、地域外からの対流を取り込むために必要な地域交通施策を抽出することが必要

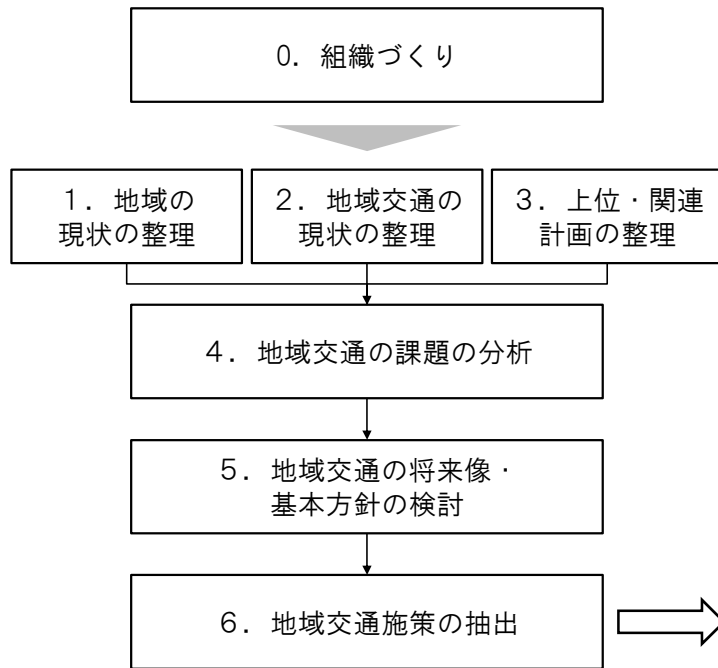
<対流を取り込む地域交通施策（例）>





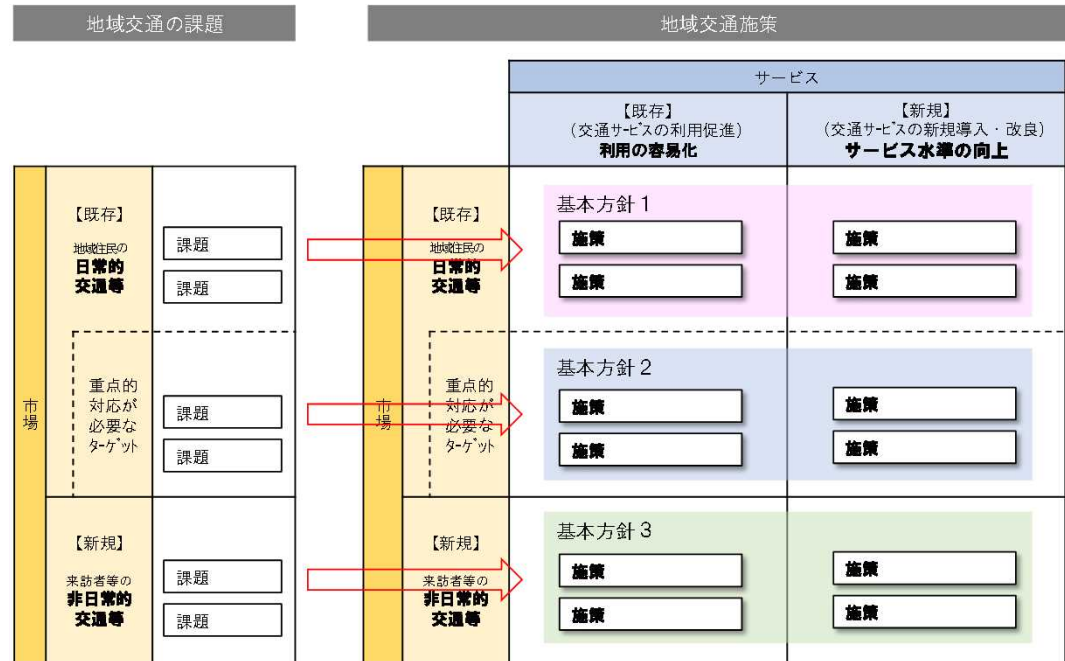
- ・ 地域資源の分布と交通ネットワークの対応状況、既存リソースの状況、関係者との合意形成の状況等施策の抽出にあたり制約となる条件を整理し、地域の実情を踏まえた施策の抽出方法を提示することが必要

＜戦略検討の流れ＞



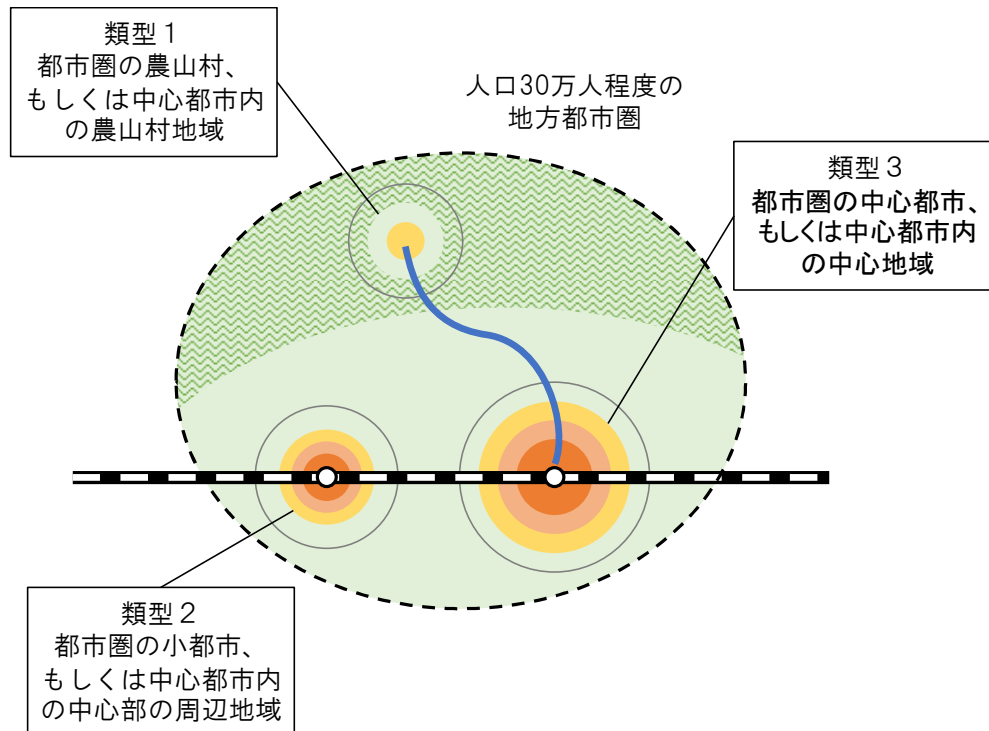
地域交通施策の抽出

- ・ 地域交通の課題、施策の基本方針を踏まえ、具体的な施策メニューを抽出
- ・ 4象限の図で施策の位置づけを整理し、施策のねらいを明確化するとともに、施策の過不足を調整

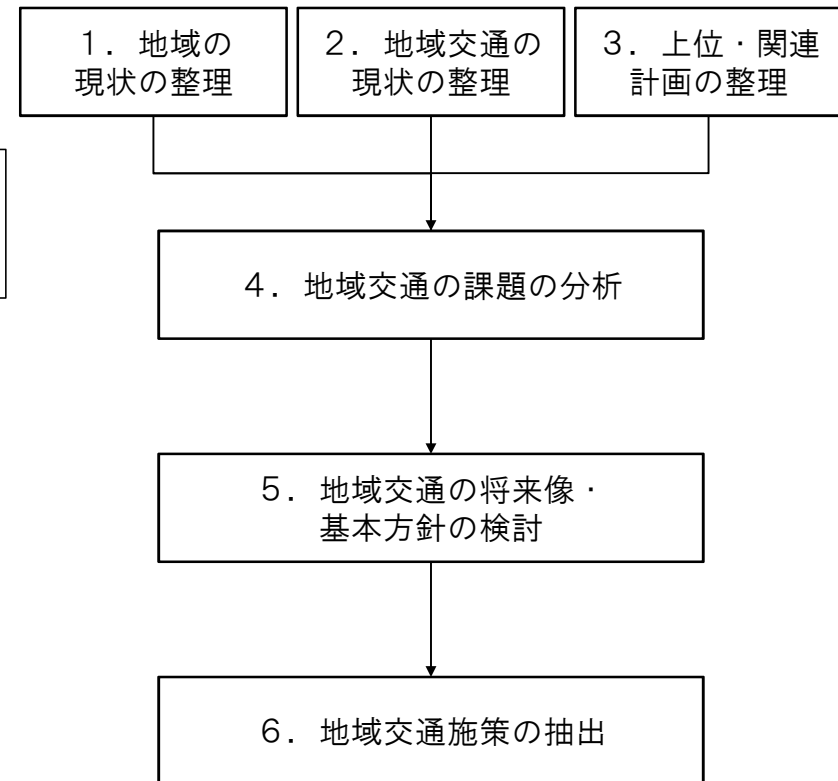


・自治体の交通施策担当者に、戦略検討についての具体的なイメージを持ってもらうため、仮想3都市を対象としたケーススタディを実施し、具体的な検討の進め方を参考例として提示

<ケーススタディ地域>



<ケーススタディの流れ>



## ＜ケーススタディ全体像＞

	類型1：都市圏の農山村、もしくは中心都市内の農山村地域	類型2：都市圏の小都市、もしくは中心都市内の中心部の周辺地域	類型3：都市圏の中心都市、もしくは中心都市内の中心地域
地域の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少が著しく、中山間地の存続が課題</li> <li>中山間地等では、人口・観光施設等が低密度に分散</li> <li>中山間地では、最低限必要な公共交通確保もままならない状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化が進展し、高齢者の増加に対応した地域づくりが課題</li> <li>一定の交通需要はあるものの、従来型の公共交通のみでは、交通需要への対応が困難な状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一定の都市機能が集積し、都市的な利便性を維持が課題</li> <li>複数の交通事業者により、路線バスが運行され、利便性が高い</li> </ul>
交通 施策の ターゲット	<div style="display: flex; border-bottom: 1px dashed black;"> <div style="width: 10%; text-align: center; border-right: 1px dashed black;">既存</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地等から市街地への訪問者や圏域中心都市への訪問者 ⇒マイカーを利用できない、若しくはマイカー利用に不安がある高齢者等（重点ターゲット）</li> </ul> </div> </div> <div style="display: flex;"> <div style="width: 10%; text-align: center; border-right: 1px dashed black;">新規</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>エコツーリズム等のアクティビティ型の観光客</li> </ul> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>郊外・田園地等から市街地への訪問者 ⇒マイカーを利用する高齢者（重点ターゲット）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>郊外から中心市街地への訪問者や中心市街地内の回遊者 ⇒事業所・大学への通勤者・大学生（重点ターゲット）</li> <li>食べ歩き等のレジャー型の観光客</li> </ul>
主な 交通課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広域路線バスの廃止・減便の恐れ</li> <li>○利用したい時間帯に公共交通が運行していない</li> <li>○地域の玄関口が分かりづらい</li> <li>○点在する観光地に公共交通でアクセスできない 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○路線バスとコミュニティバスのルートが重複し非効率な運行</li> <li>○自宅から最寄りのバス停等までのアクセスが困難な高齢者の増加</li> <li>○公共交通が移動手段の選択肢となっていない</li> <li>○観光地に公共交通でアクセスできない 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○複数事業者のルートが重複し非効率な運行</li> <li>○料金体系が統一されていない</li> <li>○大学生のバス利用離れが顕著</li> <li>○中心市街地の観光回遊が不便 等</li> </ul>
地域 交通施策	<p style="text-align: center;"><b>分散した小規模交通需要に対応する交通施策の展開</b></p> <p>広域路線バスとコミュニティバスの乗継拠点の整備</p> <p>広域路線バスへの貨客混載の導入</p> <p>大規模集落</p> <p>大規模集落</p> <p>住民組織による公共交通空白地有償運送の導入</p> <p>公共交通を利用した観光を促進する観光施設等と連携した企画乗車券の販売</p> <p>中山間地における使いやすいデマンド型交通の導入</p> <p>学校教育におけるモビリティ・マネジメントの実施</p>	<p style="text-align: center;"><b>幹線の活性化とラストワンマイルの確保を図る交通施策の展開</b></p> <p>鉄道とバスのダイヤ調整・交通結節点における待合環境の整備</p> <p>低密度需要地における使いやすいデマンド型交通の導入</p> <p>沿線住民・事業所と連携したモビリティ・マネジメントの実施</p> <p>バス停・車両等における統一的情報提供</p> <p>病院付近へのバスターミナル機能の整備</p> <p>病院にアクセスするための路線バスのルート延伸</p> <p>タクシースの相乗りによるフリーダー交通の導入</p> <p>温泉施設等にアクセスするための路線バスの経路変更</p> <p>観光客向けの公共交通マップの作成</p> <p>観光客向けの公共交通マップの作成</p> <p>低密度需要地における使いやすいデマンド型交通の導入</p> <p>無料送迎者等高齢者の割引制度の導入</p>	<p style="text-align: center;"><b>利便性の高い交通ネットワークを有効活用する交通施策の展開</b></p> <p>中心市街地循環バスの導入</p> <p>公共交通を利用した観光を促進する観光施設等と連携した企画乗車券の販売</p> <p>幹線区間の共同運行</p> <p>幹線・支線の乗継拠点の整備</p> <p>深夜・週末バスの導入</p> <p>大学生を対象にした割引制度の導入</p> <p>フリー乗車券の導入</p> <p>総合的な公共交通マップの作成</p> <p>利用しやすい料金体系の導入</p>

# 5. 対流を取り込む地域交通施策のあり方(③対流を取り込む地域交通施策の立案 4/4)

・ 前述の戦略検討により、施策メニューを決定した後、施策の諸条件や関係者等の要素、検討の流れ、検討事項を整理することにより、施策の具体化を図ることが必要

＜交通空白地域等において、新たな交通サービスを導入する施策の具体化例＞

